

ふるの結果、此業を専門とせる公のまどぬ、いで來るに至りしなり。夙にフレベル氏の立てられし幼稚の園といへるは、ひとへにこれがために創められし庭とこそ、傳ふめれ、

そも幼稚園とはかゝる必要によりて未だ學齡に達せざる幼児の爲に設立せられし者なれば、其目的とするところは能く各兒の天性に従ひよきをすゝめ、あしきをさげ、専らすなほに生ひたてしむるにあり、されば唱歌、遊嬉、手細工、など幼なごゝろを導くにふさはしくして、しかも益あるくさくの手だてをつくせり。

又明らけき今の大御代は我國にも其必要成功を悟れる者多く、近年頓に其設立増加し、従つて此處につどへる幼児の數もあげて數ふべからざるに至れり。然りとはいへども、なほ此精神を誤解し

或は、幼児を學ばしむる處なりとおもひとれるにや、幼児の自由働作に害なりとさへいふ者もあるは幼稚園のためには、いみじき寃にして實に幼稚園は幼児の爲には樂しき園生、安全なる園生自由なる園生にこそはわれ。あはれ、かゝるめでたき園生につどひ得る幼児の幸こそまたたぐひなけれ。

公德唱歌 (其一)

學校の詩人

物理の試験面白や 生きたる蝶々瓶に入れ

空気をぬけば動かれず 空気をさせば飛び廻る

前なる人よ立つ勿れ 後の人も見ゆるやう

試験は誰も見たきなり

運動會の面白さ 白と赤との綱引や

勇氣をだせば取返へし 勇氣撓めば引ずらる

前なる人よ立つ勿れ
勝負は誰も見たさなり

庭にうゑたる梅さくら

花の兄なる梅の花

咲きたる下にて手をひきて
皆諸共に楽しまん

後の者も見ゆるやう

根方をふむな技折るな

花の妹なる櫻花

海邊の夕ぐれ

いざり火

夕日落ち行く海の末

オレンジ匂ふくもの色

浪のうねく影うすし

沖よりおくるすゝ風を

軽さ袂にはらませて

をちこちあさる濱傳ひ

貝拾ふ子も今は去りて

汀の小さいわらふなみ

磯馴松の枝のうなり

調べあかしく聞ゆなり

潮路も見えぬ夕霧に

見えみ見はすみ薄くこく

海をわやどる島山を

見いる向ふの岩かげに

小舟掉さし父も子も

うたう船うた勇ましく

浪のまにまに聞ゆなり

うらの苦屋に只ひとり

我春我子の歸る路を

照さんどてか焚く松明も

海には家路急ぐ父と子

くがにはふなぢ思ふ母

かたみに寫す暮の色

打見るはま邊染なせり

日は暮れに見海は暮し

月は未だ出ぬ宵やみの

岩打つ浪も音すごく

吹き來る風の身にぞしむ

友に別るとて

東条子

今宵別れの思ひ出と

君がかなつるキオリンの

糸の調は絶ゆるども

名残はつきじとこしへに

月かげ

小林恒子

涙はらひてのる船の

けふりもくろき海の上に